

29) DMP 児の知能に関する研究

国立療養所南九州病院

西村喜文 中島洋明

< 目 的 >

これまで進行性筋ジストロフィー症、D型の知能低下については様々な報告がなされているが、*Neurological control* としてD型と同じような生活経験、身体的ハンディーを有するK-W型L-G型をとりあげてみると、日常生活の中での行動様式、学業成績等に違った反応を示し、適応能力、推察力等に富んでいるように思える。そこで今回は、南九州地区（鹿児島、宮崎）のD型、K-W型L-G型を対象に知能検査を実施、比較検討を行ったので報告する。

< 方 法 >

南九州地区のDMP児のうち、D型34名、K-W型11名、L-G型10名に関して歩行開始時期、障害度を調査しWISC知能検査を行ない歩行開始時期との関係、障害度との関係、*profil* による検討を行った。

< 結 果 >

WISC知能検査の結果、上田式障害度と全IQの関係については、D型とK-W・L-G型においては有意な差がみられた。(図1)

またD型とK-W・L-G型のIQと障害度との相関はなく、障害度のかたよりも検定によりないことを確認した。また、言語性、動作性IQにおいても全IQと同じように有意な差を認めた。(図2)

次に *profil* による 得点形式でみると図3の如く3群ともに同じような *profil* を描きながらも、あきらかにD型が低い得点を示しているのがわかる。

図1 DMP児における知能とstage別との関係

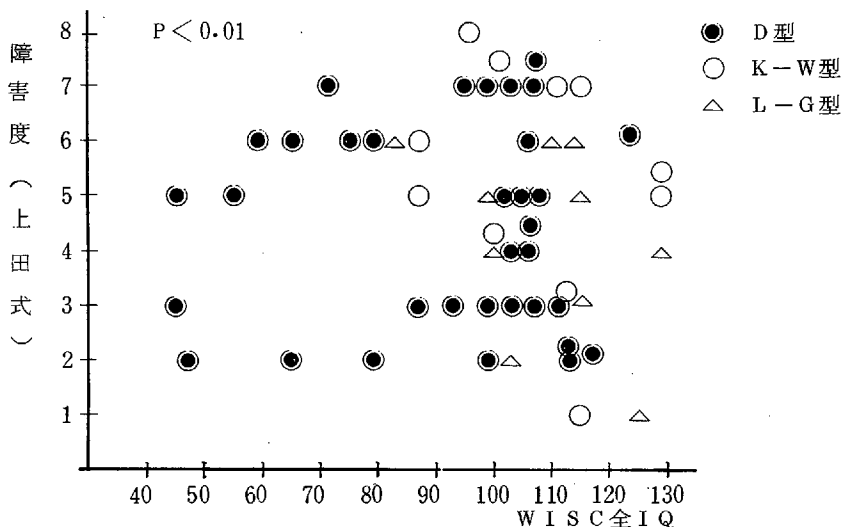
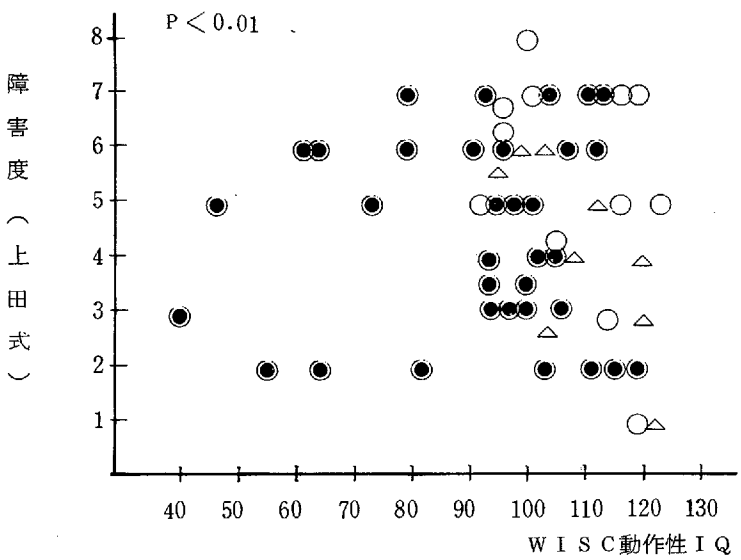
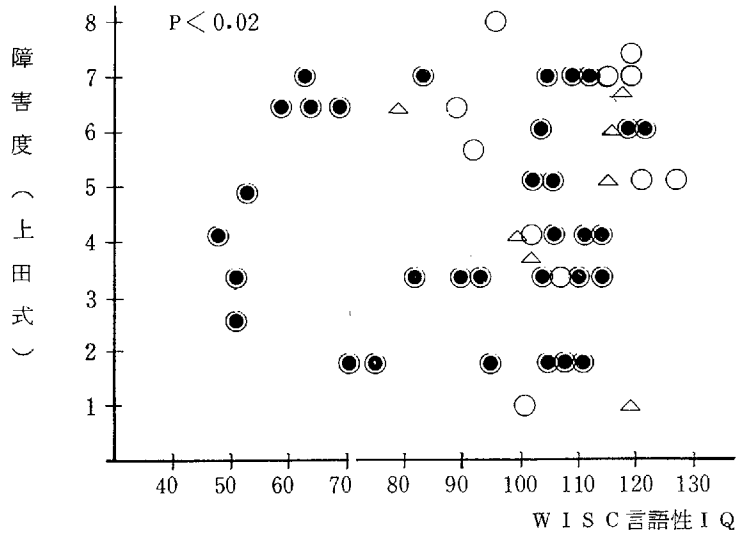
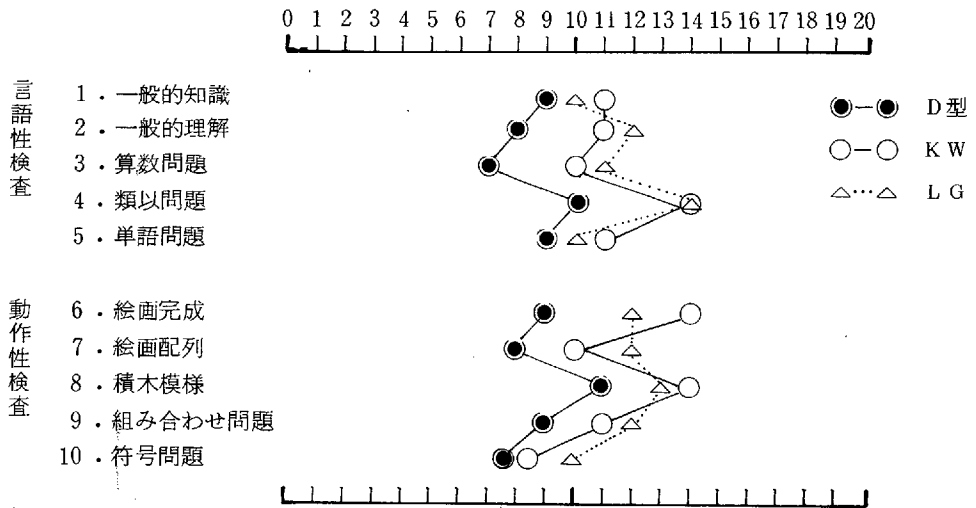


図2 DMP児における知能とstage別との関係



● D型 ○ K-W型 △ L-G型

図3 WISC知能検査プロフィール



全検査	M	t
D型	88.52	$t = -2.60$
KW	113.63	$P < 0.02$

	M	t
D型	88.52	$t = -2.59$
LG	114.8	$P < 0.02$

言語性		
D型	43.52	$t = -2.49$
KW	58.00	$P < 0.02$

D型	43.52	$t = -2.27$
LG	56.9	$P < 0.05$

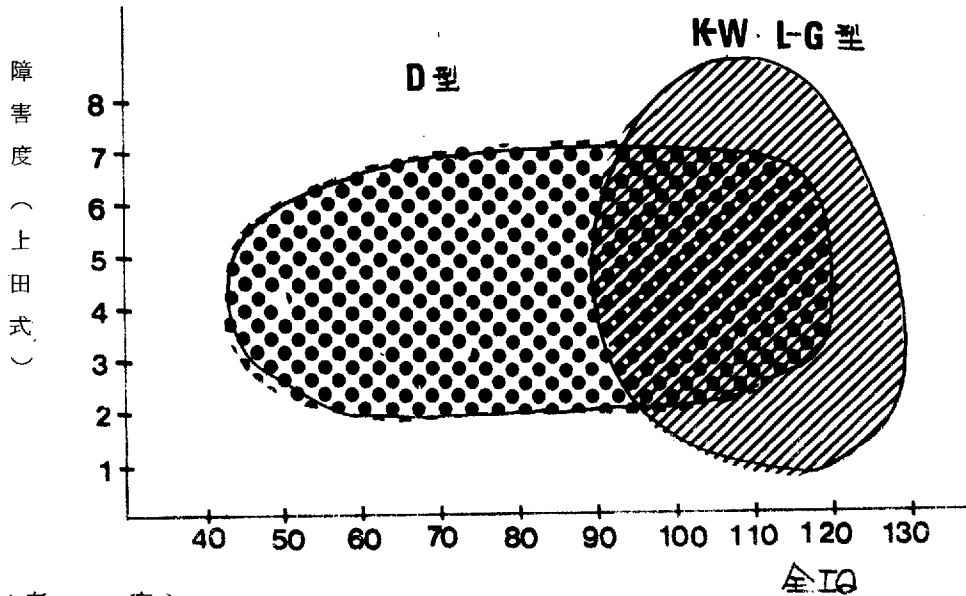
動作性		
D型	45.00	$t = -2.27$
KW	57.45	$P < 0.01$

D型	45.0	$t = -2.75$
LG	57.9	$P < 0.01$

<まとめ>

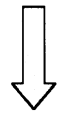
- ①DMP児のD群ではL-G・K-W群との間に有意差をもって低IQがみられた。
- ②D群のIQ分布は図4の如く広範囲の分布を示しL-G・K-W群のそれと異なり独得のパターンを示した。
- ③動作性、言語性のプロフィールをみても、D群は有意に低下を示した。
- ④D群・L-G・K-W群共に障害度とIQとの間には相関関係はなかった。

図4 障害度による分布

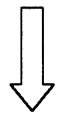


<考察>

共通した *disability* を有する 3 群との比較において、明らかな有意の差をもってD群にIQ低下がみられたことは、D型特有のIQ低下を示唆するもので、従来よりいわれた *disability* による二次的なIQ低下を考えるよりも、一次的なD型におけるIQ低下を示唆する所見と推定されるもので非常に興味ある事実といえます。D型と同様の *disability* を有する進行性筋萎縮症 (特にK-W・L-G) において知能を明確にし、今後更に症例を増加し検討を加え48年度の我々の報告を引き続いて、運動年齢とIQとの関係をも検討したいと思います。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



<目的>

これまで進行性筋ジストロフィー症、D型の知能低下については様々な報告がなされているが、

Neurological controlとしてD型と同じような生活経験、身体的ハンディーを有するK-W型L-G型をとりあげてみると、日常生活の中での行動様式、学業成績等に違った反応を示し、適応能力、推察力等に富んでいるように思える。

そこで今回は、南九州地区(鹿児島、宮崎)のD型、K-W型L-G型を対象に知能検査を実施、比較検討を行ったので報告する。